

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501571		
法人名	有限会社 アムケア		
事業所名	グループホーム まどべ		
所在地	札幌市厚別区厚別中央1条3丁目4-16		
自己評価作成日	平成23年5月5日	評価結果市町村受理日	平成23年6月14日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170501571&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成23年5月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「まどべ」は1ユニットの家庭的なグループホームで閑静な住宅街にあり地下鉄や買い物のに恵まれている。
生鮮物は毎日買い出しに行き家庭的でバランスとバラエティーに富んだ温かな食事を提供している。
日課となっている散歩やアクティビティーで心身の活性化に努め、高齢でもメリハリのある生活を維持している。
地域の方々への挨拶をはじめ、除雪やごみステーションへの配慮、町内の行事や総会などへの参加など交流や支え合いを心がけている。ボランティアの方々や地域の方々の理解や支援を得られている。
ヒヤリハット報告を検証し、6:30～8:00にスポット的に人手を厚くするなど、高齢化重度化に対策を講じている。
昨年12月には医療と介護の連携の元、家族が満足できる看取り介護を実践できた。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームまどべ」は、地下鉄の駅から数分という交通の便に恵まれた住宅地に位置している。近くには公園があり、日々の散歩では近隣住民との交流も活発に行われている。職員は、利用者と一緒に歩道の花の水やりや冬季の除雪など、「地域の一員として」と理念に掲げるように、ともに近隣住民と支え合い、寄り添いながら利用者一人ひとりが毎日生き生きと過ごしている事業所である。利用者が「ゆったりと穏やかに過ごせるように、各職員の見解に常に耳を傾けて運営に反映させ、温かさの中に厳しさを持って職員を指導している運営者の人柄に管理者や職員は共感し、ともにより良い事業所を目指して日々のケアに取り組んでいる。年間を通して、ほぼ毎日散歩に出かけたり、地域住民や家族と触れ合う多くの行事、陶芸教室や定期的なマッサー師の訪問など利用者の楽しみ事も数多く取り入れられている。毎月計画的に行われている勉強会や、初めて行った看取りに対しての研修など、職員育成にも力を注いでいる。各利用者は自分たちで制作した器で楽しく食事をしたり、職員と楽しく会話を交わしながら毎日明るい笑顔で生活している。居間にはいつも笑い声が響き渡り、温かく家庭的な事業所である。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆったり寄り添い慈しみ合って暮らしていきたい、自分らしく誇り高く地域の一員としていきいきと」の理念は職員と話し合って作り、地域密着型になってからは運営推進会議で助言をもらい「地域の一員として」を添えて実践している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を居間や廊下などに掲示している。採用時研修で理念の内容を詳細に説明したり、勉強会などで立ち返りを行い、全職員で理念を共有して実践につなげられるように日々取り組んでいる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	代表は町内会総会・懇親会に出席。職員はごみステーションの除雪・清掃を積極的に行う。運営推進会議やイベント、回覧板や散歩時の挨拶など、日常的に交流している。	町内会に加入して夏祭りに参加したり、小学校の鈴虫交流会への参加や中学校の職業体験の受け入れを行っている。事業所の行事に近隣住民を招待したり、花や野菜のお裾分けをもらうなど、日常的に交流が行われている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まどべの行事に来て頂いたり町内の行事に参加したり、運営推進会議で「認知症講座」をテーマにしたり、地域のスーパーやレストランによく出かけるなどして、理解と支援の方法を活かしている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	訪問して頂いたり、話し合いや報告、勉強会などテーマは色々であるが意見や助言など非常に有り難くサービス向上に活かしている。	前回の外部評価を活かし、昨年度はテーマを設定して5回の運営推進会議を開催している。テーマに応じて消防署員や病院関係者などの参加を得て勉強会を行い、参加者からも多くの意見が寄せられるなど、会議が日々のケアや運営に役立てられている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者とは報告・質問など密にしている。東日本震災におけるボランティア協力を申し出ている。包括支援センター職員は運営推進会議に出席してくれるので、サービスの取り組みの現状が伝わり協力関係にある。	運営者は市役所の担当者とは日頃から連絡を取り、随時相談や質問などを行っている。昨年度はスプリンクラー設置や看取り加算に関する相談を行い、運営に役立てている。また市役所には、介護認定更新やおむつサービスの相談などで訪問している。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は勉強会や話し合いを通じ、身体拘束の具体的な行為を正しく理解し、身体拘束をしないケアに常に取り組んでいる。	虐待や身体拘束などについて資料を作成し、全職員に配布して定期的に勉強会を行っている。身体拘束にあたる具体的な行為などについてのマニュアルの整備は今後行う予定である。禁止語や「どこ行くの」など、拘束につながる言葉かけをしないように心掛けている。玄関は鈴を付けて利用者の出入りを把握し、夜間のみ施錠している。	今年度は「身体拘束ゼロへの手引き」など、身体拘束に関する具体的な行為のマニュアルを整備して勉強会を行う予定なので、その取り組みに期待したい。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員自身のストレスについて研修を受けたり話し合ったり、高齢者虐待防止法を学んだりして、お互い注意しあって防止に努めている。		

グループホーム まどべ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修会で学ぶ機会がある。また、入居者に成年後見人が付いている方がいて、活用例を身近にみている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な説明を行い不安や疑問に答え納得して頂いている。改定時にはその都度、報告説明し質問に答えて理解を頂いている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族とは信頼関係を築くように普段から努めており、会話の中でも意見や要望を言って下さる。真摯に受け止め運営に反映している。	管理者や職員は、家族の来訪時に利用者の日常の様子を話して信頼関係を深め、気軽に意見や要望が言いやすい環境作りに配慮している。家族から出された要望などは日誌に記録し、職員間で共有して運営やケアに役立てている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	勉強会や会議、その他タイムリーに職員の意見や提案を聞く機会や姿勢があり、反映させている。	毎月の会議やカンファレンス時、日々の勤務の中で各職員の意見や要望を聞いて運営に反映するように配慮している。勤務体制について職員の意見を反映したり、行事や勉強会などの各種委員会を設けて、職員が計画して積極的に取り組めるように工夫している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるよう、職場環境・条件の整備に努めている。やりがいや目的意識、得意分野の発揮などを目的に各委員制を設け、ケアプラン作成を担当制にしている。休暇、労働時間の希望、給与・手当などの条件整備にも努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の仕事への向上心・確実性・倫理観・指導力・チームワーク力など評価しつつ、内外研修を受ける機会や育て合える勉強会や声を掛け合う現場の確保に努めている。資格取得のための受講には助成金制度がある。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修でのグループワークや区内の管理者会議、グループホーム同士の見学や訪問実習などの交流、又空き情報交換などのネットワークがあり、サービス向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居時にはコミュニケーションをよくとり、安心して頂けるよう職員全員が心がけている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>アセスメントシートや見学時の聞き取りを通して、又面会時や電話などでもいつでも耳を傾け関係づくりに努めている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>まず「その時」必要なことは聞き取ったり見極めたりして支援に努めている。例えばよくそうを治したいなど。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>出来ること、やりたいことを見極め、長年の経験の中から教えて頂き共に学び支え合う関係を築いている。</p>		
19		<p>本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>「家族の力」「家族の絆」を大切にし来訪時や電話がけなどゆったりコミュニケーションとれるよう雰囲気作り、情報交換に努めている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族、親せき、知人の方々の来訪があったり、自宅へ外出・外泊、なじんだ自然や景色のところに連れて行って下さるのを支援したり、手紙を書くなどの支援をしている。</p>	<p>職員は利用者の状況に応じて、知人との手紙のやり取りや趣味の仲間との交流などがスムーズに行えるように支援している。家族と一緒に墓参りや馴染みの公園に出かけたり、職員と、希望に応じて馴染みのお店などに買い物に出かけている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>同じテーブルに誘ってお茶のみをしたり、職員が仲立ちをして楽しみを共有したり、利用者同士が関わり合い支え合えるよう支援している。</p>		

グループホーム まどべ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族の来訪、手紙のやり取りがある。また、親せきや知人の症状や入居の相談もある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話や訴えを受け止め情報を集め希望や以降の把握に努め、本人本位に検討している。	利用開始時に家族や本人から生活歴などの情報を得て記録している。散歩や入浴など個別支援の時の会話や日々の表情、行動から本人の思いや意向を把握して記録し、全職員で内容を共有している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族等の会話の中から暮らし方や生活歴などの把握に努めている。アセスメント票はセンター方式を活用している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスや朝夕の申し送り、記録や報連相を密にして情報を共有し現状の把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族との会話や関わりの中で困っていることや要望・あり方などを汲み取ったり話し合ったりして関係者と検討し現状に沿ったプランを作成している。	新規利用時の介護計画は、1週間後に本人の状況に合わせて見直しを行っている。介護計画は、担当職員と計画作成担当者が中心になり、毎月のカンファレンスや日々の記録、職員や家族の意向などを反映して3ヶ月毎に見直しを行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の様子、気付き、ケアプランの実施の様子など個別に記録し情報共有してケアの工夫、介護計画の見直しなどに活用している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望によりマッサージ、新聞を頼んだり、家族が持参するサプリメントを飲んで頂いたり、身体状況に合わせた食事や医療の対応などニーズに合わせて支援している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	趣味活動や生活支援にボランティアさんの協力があり、又町内のお祭りや学校、スーパー等を利用して本人の力を発揮しながら豊かに暮らせるよう支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・精神科の定期往診、歯科・皮膚科の必要時往診、その他の科への受診など本人家族と相談しながら適切な医療を受けられるよう支援している。かかりつけ医と事業所の関係性も良好である。	利用開始前からのかかりつけ医は、希望に応じて受診継続は可能である。家族が受診に同行する時はメモや口頭で医師に様子を伝え、受診結果や往診結果は日誌や往診記録に記載して、職員間で情報を共有している。	日々の日誌への記録と受診記録を分けて個別に整理することで、個々の受診経過を把握して更に日々のケアに活かされるように期待したい。

グループホーム まどべ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師とは情報や気づきを気軽に相談でき、指示や助言をもらいながら適切な受診や看護に繋がっている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中のお見舞い、病棟看護師や医師との話し合いを通して安心して治療を受けられるよう、又、早期退院に向けての情報交換や相談など関係作りなどに努めている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や質問時に説明している。重度化してきたら終末期のあり方や事業所で出来ること等話し合せて本人家族と方針を共有し訪問看護ステーションや提携医などとチームで支援に取り組んでいる。	利用開始時に「重度化した場合の対応に係る指針」を説明して署名捺印を得ている。終末期は家族や関係者と方針を話し合い、個別に「終末期の生活支援に関する覚書・同意書」を作成し、希望に応じて可能な限り看取りを行っている。昨年初めて看取りを行い、事前検討会と看取り後に振り返りを行い職員で学びを深めている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	採用時研修での緊急時対応法の勉強、定期的な消防訓練に合わせた救急救命の訓練、マニュアルの掲示などで備えている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害への避難訓練は年2回以上実施して地域の方々、町内消防団の方々の参加もあり協力体制を築いている。	昨年度は、消防署の協力のもと地域住民の参加を得て、運営推進会議時に2回夜間想定避難訓練を行っている。今年度は、地震想定避難訓練をすでに行っている。災害備蓄品を整備し、職員の救急救命訓練講習も定期的に行われている。	
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な本人に合った言葉掛けや対応で人格や誇りやプライバシーを尊重する関わりを心がけている。	利用者の呼びかけは苗字か名前に「さん」付けし、優しく声かけしている。気付いた点は互いに注意している。記録類は事務所で管理している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が理解できるような働きかけをし日常生活の中で自己決定や希望を表出できるよう支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合を優先せず出来るだけ本人のペースを大切にして入浴や散歩などの希望に沿うよう努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った洋服選びやその人らしい身だしなみ(パーマやエプロン姿、几帳面な着方など)ができるよう支援している。		

グループホーム まどべ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	能力や好みを活かして下ごしらえや味見や盛り付け、片付けなど職員とともに行き、食事が楽しみになるよう働きかけている。	利用者の能力に応じて下ごしらえや盛り付け、後片付けなどを手伝ってもらっている。陶芸教室で利用者が作った食器を活用している。利用者と職員が談話し楽しく同じ食事を摂っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態や力、習慣に合わせて食べやすい形態や大きさ、摂取量を把握調整し、水分量の確保にも留意した工夫に努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声かけ・見守り・介助・義歯洗浄等本人の力に応じた口腔ケアの支援は習慣となっており、口腔内の観察で傷・腫れ・痛みが発見につながっている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表などで排泄パターンを把握し職員の協働により、時間をみてのトイレ誘導で失敗の減少、おむつからポータブルトイレ使用への移行の実現など尊厳維持に努めている。	排泄チェック表に利用者の排泄記録を取り、パターンを把握しながら、羞恥心に配慮し、誘導している。利用者の状態に合わせてリハビリパンツやパットなどを使い分け、自立につなげている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の好みや状況に応じた飲食物の工夫(冷たい・熱いや乳酸菌飲料、サプリなどの工夫)、排便状態の把握に努め便秘が続かないよう取り組んでいる。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調やタイミング・希望などに沿い入浴を楽しめるよう実施している。	日曜日以外は毎日入浴可能で、日曜日でも足浴ができる。各利用者が週2回は入浴できるように支援している。拒否がある場合は担当者を代えて誘うなど工夫している。入浴剤を使い、楽しめるようにしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の習慣や状況に応じ日中ソファーやベッドで休息したり、安心して眠れるよう就寝前もそれぞれの過ごし方をして頂いている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	変化があった時など薬の影響を意識し医療との連携を取るよう努めている。声かけ・見守り・介助(とろみ)などの服薬支援、変更時の様子観察などに努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操のリーダーシップ、家事や生け花等の役割、飴を買う・野球をみる・アルコールをたしなむ等の嗜好品、日々の散歩やアクティビティー・行事などでの気分転換等の支援をしている。		

グループホーム まどべ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>毎日の戸外の散歩・買物、行事としての花見・果物狩りや外食・ショッピングなどの支援、地域の協力の元お祭りや学校行事の参加、家族との外出支援を行っている。</p>	<p>季節を問わず毎日のように近くの住宅街や公園を散歩している。買い物の外出も活発である。花見やさくらんぼ狩り、外食ツアーなどの季節行事も豊富である。同一法人のもう一つのグループホームやその1階にある喫茶店にも訪れている。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>管理できる方は所持し買い物をしている。管理できなくても預かり金を持って職員のサポートの元買い物を楽しんでいる。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>自ら電話がけできる方もいる。また職員が手だてをして電話したり手紙を書いたりして家族等との交流を支援している。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>不快な音や刺激はなく窓からの日差しがあり、庭は狭いけれど花木や野菜が見え生活感のある心地よい空間になっていると思う。季節感のある飾り付け(ひな人形・七夕・クリスマスツリー等)や写真や生け花など工夫している。</p>	<p>共用空間には家庭的な調度品があり、利用者や職員の写真、習字や俳句など利用者の作品が飾られている。浴室やトイレも使いやすく、エレベーターも設置されている。居間は日当たりが良く、庭の花も観賞でき、快適に過ごせるようになっている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>共有空間の中では他者の視線を感じないように席を工夫したり、気の合う同士が交流できる居場所の配慮をしている。</p>		
54	20	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染みの家具やアルバム・本や壁飾りなどが居室にあり本人が居心地良く過ごせるよう、又家族が安心して来訪して過ごせるよう工夫している。</p>	<p>居室は9~10畳と広く、利用者が自由にベッドやソファ、趣味の物や戸棚、テレビなど馴染みの品物を多く持ち込むことができ、安心して過ごせる場所となっている。壁も、家族の写真やカレンダーなど利用者が自由に飾り付けている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>玄関の手すり付き椅子、トイレ・浴室・居室のプレート、踊り場のある階段、テレビや冷蔵庫・仏壇などが置ける広めの居室等で安全且つ自立した生活が送れるよう工夫している。</p>		

目標達成計画

事業所名 グループホームまどべ

作成日：平成 23年 6月 10日

市町村受理日：平成 23年 6月 14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	30	受診内容や薬の変更など、日誌の連絡事項欄に記入して、情報共有はできていたが、個々の受診経過が一目でわかる方式ではなかった。	個人別に記入することにより、見やすくなり、より情報共有がしやすくなる。個々の体調の経過や傾向が分かりやすく日々のケアでの個々への配慮が深まる。	受診記録ノートを作成する。家族等が受診に付添った場合、Dr. から説明や指示があった場合、報告を受けたスタッフ名、その内容等を記録し、申し送りで確認し合う。又、日誌や個人記録簿とリンクして活用する。	H23.6.1開始
2	6	虐待や身体拘束の勉強会は行い、スタッフは理解し取り組んでいるが、マニュアルの整備ができていなかった。	「身体拘束ゼロへの手引き」等を参考に勉強会にて取り入れ、ホーム全体で共有し、今まで以上に確認し合いながら「拘束ゼロ」を実践していく。	個々のアセスメントを再確認していき、事故の起きない環境や支援体制を整えていく。月例の勉強会で改めて研修する。	H23.6.10開始
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。